

令和 8 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①教育活動の質的向上を図る。 ②学力向上と進路実現に向けて、主体的に学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育成する。	①生徒が、主体的・協働的に取り組む学習を推進し、課題解決能力を育む。 ②学習意欲を高める工夫をし、学習習慣の定着を図る。	①他者と協働して取り組む活動を取り入れる。授業改善に向けた研修会を行う。 ②各教科において授業見学や教科内研修を行い、授業内容の改善を図る。週末課題等の内容を工夫し、その取り組み方を指導する。	①グループワーク等を取り入れ、他者と協働して取り組む活動を行い、主体的に取り組むことができたか。 ②各教科で研修会等を行い、授業内容を工夫したか。
2	生徒指導・支援	①規範意識や基本的生活習慣の定着を図る。 ②個に応じた教育相談体制を充実させ、ＳＣ・ＳＳＷと連携し、課題解決に向けて取り組むことができる人材の育成を図る。 ③部活動や委員会活動、学校行事に主体的に参加し、他者と協力しながら魅力ある学校生活の創造を図る。	①「一人は一校を代表する」を推進し、社会性が身に付く教育を行う。 ②学校内の連絡を密にし、教育相談が必要と思われる生徒に対して、ＳＣ・ＳＳＷと連携し手厚い指導を行う。 ③充実した学校生活の実現を目指し、生徒主体の学校行事を推進する。そのため、すべての生徒が主体的に参加できる行事内容を工夫する。	①日頃より、身だしなみ指導や警察による非行防止教室を行い、規範意識向上に努め特別指導の件数を抑える。 ②かながわ子どもサポートドック等を活用し、生徒情報の共有を密にし、ＳＣ・ＳＳＷと連携し生徒の学校生活をサポートし、寄り添った指導を展開する。 ③ 行事は生徒会を中心に企画し、教員と生徒が綿密な打ち合わせを行うことで、生徒主体の運営ができるよう指導をめざす。	①特別指導の件数を昨年度より減らすことができたか。 ②教育相談が必要とされる生徒に対して、効果的な支援ができたか。 ③行事ごとのアンケートにおいて、魅力ある学校行事（生活）であったか。
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細やかなキャリア教育の実践を図る。 ②地域連携を通して、地域に求められる人材育成を図る。	①進路指導アセスメントを策定し、3年間を見通した進路指導を体系的に実現する。 ②就職希望者に対する早期意識付けや、地域企業との連携密度を高める。	①文表模試や思考模試、講演会を学年毎に実施し、総合型選抜や志望理由書等への対策を充実させる。 ②地元企業ガイダンス等セミナーの実施を早期より行い、生徒の意識付けを行う。	①生徒が積極的に課題に取り組み、進路意識の醸成に寄与できたか。 ②就職希望者の内定率が100%を維持できたか。
4	地域等との協働	①地域と連携、協働した学習環境の確立及び発展を図る。 ②地域貢献に資する人材を育成する。	①地域の協働していただく団体や企業、コンソーシアムの活用による学習の充実を図る。 ②学校行事や地域行事、各教科等における地域と協働した学習を推進する。	①「総合的な探究の時間（未来探究）」を中心とした学習において、地域人材や地域企業との協働学習を展開する。 ②地域と学校の交流を積極的に行う。また、発表活動などを通して、他校種における生徒、児童及び教員との交流を推進する。	①地域人材や地域企業と連携協働し、協力団体の活用を10回以上行えたか。 ②行事や教科等において、地域と学校間の人材交流が推進されたか。
5	学校管理 学校運営	①働き方改革の視点を重視し、教員のワークライフバランスの推進を図る。 ②ハード面・ソフト面の両面において、職場の環境改善を図る。	①勤務時間を意識し、業務の優先順位を考えながら、時間内で業務が終了できるような工夫を凝らして業務を遂行する。 ②オフィス改善の原点に立ち返り、働きやすく安全で機能的な職場環境を整備していく。	①「すぐる」の導入等のDX化により生じた時間を有効活用し、優先順位を考えながら業務を遂行する。 ②職場内の活用されていないスペースや共有部分の整理整頓を推進し、限られたスペースを有効活用して、業務の効率化や事故防止につなげる。	①業務の精査、効率化により、定時以降の業務時間が短縮され、教員のワークライフバランスの改善が図られたか。 ②学年団やグループ等の未使用のロッカーや不要な書類等を積極的に廃棄すると共に、各グループでサーバー内のデータ管理状況を見直すことにより、業務の効率化や事故防止が図られたか。